

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	特別支援教育支援員配置事業	所管	教育委員会学校教育部 学校教育課
			TEL 2998-9238

事業の目的 (何の為に 行うか)	様々な障害のある児童生徒の学校生活を支援するため、特別支援教育支援員として配置し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図り、児童生徒の「確かな学力」をはぐくむとともに、豊かな心やたくましく生きるための健康や体力を育成する。
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	市立小中学校在籍児童生徒	対象とした数	25,849	人
		実際に 利用した数	25,849	人

活動の内容	(何を したか)	特別支援教育に関する知識や意欲のある人材を市立小中学校に特別支援教育支援員として配置する。配置された特別支援教育支援員は各学校の実情に応じて次のような介助・支援を行う。 ①基本的な生活習慣確立のための日常生活上の介助 ②発達障害の児童生徒に対する学習支援 ③学習活動、教室間移動等における介助 ④児童生徒の健康・安全確保 ⑤周囲の児童生徒の障害理解促進									
活動実績	項目名	採用人数	-----	項目名	延出勤時間	-----	項目名	小中学校1校あたりの特別支援教育支援員数	-----	項目名	-----
			単位	人		単位	時間		単位	人	人

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	0	0	0	0.0

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	児童生徒100人あたりの特別支援教育支援員数	特別支援教育支援員採用人数/児童生徒数	-----	-----	-----
			単位	単位	単位
			人	人	%

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ * 拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他 []									
		終了 ⇒ 事業完了 終了 休止									
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了									

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 * 有り⇒下記評価へ 無し⇒終了										
	総合 評価	* 拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他 [] 終了									
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了									

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当 部課	部課コード	130100	TEL	2998-9238
事業コード	特別支援教育支援員配置事業					
130108	教育委員会学校教育部 学校教育課					
開始年度		平成 20 年度	—	終了年度	平成	年度

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託+附加			根拠法令				
	分野別計画・指針								
	関連・類似事業								
	総合計画の体系	政策	第4章 いきいきと学び 人・文化をはぐくむまち	施策	2節 学校教育	中柱	1 教育内容の充実	小柱	(7) 特別支援教育の推進
	行政改革大綱における行動計画への位置づけ		・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 6 位				・実施計画における位置づけ… H19 *** H20 A		
事業開始の背景	特別支援教育支援員を小・中学校に配置し、様々な障害のある児童生徒に対する学校生活上の介助や学習活動上の支援を行う。児童生徒の教育的ニーズに対応し、特別支援教育を推進するため細やかな指導対応の必要性があり、事業として開始する。								

③事業の内容	目的(何のために、具体的に)									
	様々な障害のある児童生徒の学校生活を支援するため、特別支援教育支援員として配置し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図り、児童生徒の「確かな学力」をはぐくむとともに、豊かな心やたくましく生きるための健康や体力を育成する。									
	対象(誰を、何を対象としているのか)									
	利用数の考え方					利用数の考え方				
	市立小中学校在籍児童生徒					市立小中学校在籍児童生徒数				
対象数	単位	平成 18 年度	25,968	人	平成 19 年度	25,849	人	平成 18 年度	25,968	人
事業の具体的な内容及び実施方法										
特別支援教育に関する知識や意欲のある人材を市立小中学校に特別支援教育支援員として配置する。配置された特別支援教育支援員は各学校の実情に応じて次のような介助・支援を行う。 ①基本的な生活習慣確立のための日常生活上の介助 ②発達障害の児童生徒に対する学習支援 ③学習活動、教室間移動等における介助 ④児童生徒の健康・安全確保 ⑤周囲の児童生徒の障害理解促進										

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性) << 最終評価 <input type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 >>									
	総合評価	<input type="checkbox"/> 事業の継続 => (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ())								
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了								
	平成19年度中に改善した点									

⑤経費	≪会計種別≫ 一般会計				平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算						56,400
	決算 (見込み含む)						
	(嘱託職員) (臨時職員)				(人) (人)	(人) (人)	
	正規職員人件費				人	0	0
	公債費						
	事業費合計				0	0	
	財源内訳				0	0	56,400
	一般財源						
	国・県支出金						
受益者負担金							
市債							
その他							
市民一人当たり(単位:円)				0.0	0.0		
利用者一単位あたり(単位:円)				0.0	0.0		

※「財源内訳」について平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	採用人数	特別支援教育支援員採用人数	人			47	
	延出勤時間	延勤務時間	時間			56400	
	小中学校1校あたりの特別支援教育支援員数	特別支援教育支援員採用人数/小中学校数	人			1	
	成果分析	児童生徒100人あたりの特別支援教育支援員数	特別支援教育支援員採用人数/児童生徒数	人	目標値		0.18
				%	達成率		実績値の拡大を図る1 実績値の縮小を図る2

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直す必要性 <input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	実施主体	現在の実施主体 市 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合 <input type="checkbox"/> 統合する <input type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input checked="" type="checkbox"/> 統合等必要なし	受益と負担の関係	受益者負担の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	明らかとなった課題	年度途中ででの配置も念頭に入れ、1校1人の特別支援教育支援員を配置予定としているが、支援員の人材確保が困難である。特別な資格を条件としていないこともあり、特別支援教育支援員の研修を設定して専門性の養成を行う必要がある。		
	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)	
平成20年度における目標設定	児童生徒の満足度を高くする	アンケートをとり、各校における特別支援教育支援員の配置による効果、生活や学習活動における介助及び支援についての効果を見る	平成21年3月	
平成21年度における事業の方向性				
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 => (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ())			
予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了			
評価理由 特別支援教育支援員の配置と活用により、通常学級に在籍する発達障害のある児童生徒も含め、一人一人の教育的ニーズに対応した指導を行うことが可能となる。日常生活上の介助など配慮を要する児童生徒や理解に時間のかかる児童生徒の指導にもかわり、よきめ細かな支援を行うことができる。特別支援教育支援員配置事業は、学校における特別支援教育をより充実させるため、さらなる拡充を図る。				
評価日	平成20年5月15日	記入者職氏名	学校教育課長 内野 正行	

⑧二次評価	平成21年度における事業の方向性									
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 終了								
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了								
	事前評価	部内優先順位… 12 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	<input type="checkbox"/> A: 優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業		
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> B: 重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業		
	市長マニフェスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> C: 現状での実施は見送るべきと評価する事務事業			
評価理由	今年度から、学習支援員配置事業との違いを明確にして取り組みを始め、各校における特別支援の必要性を把握しつつ取り組んでいることなどから、今後の成果を期待して総合評価を「拡充」とした。 予算については、現状の支援員数で取り組みを進めるべきと考えて「現状どおり」とした。									
評価日	9月1日									

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画		本事業の左記計画における位置づけ… 無し		計画コード	
	施策の体系		施策の方向			
	◎次世代育成支援行動計画		本事業の左記計画における位置づけ… 無し		計画コード	
	基本目標					
	主要課題					
施策の方向						